

巻 頭 言

政府主導の「地方創生」がうたわれる中、全国各地でさまざまな地域創生に向けた取り組みが展開されています。しかし、取り組みの多くは短期的な経済活性化策にとどまっているように思えます。

このような現状を打破するために、立教大学 ESD 研究所では、長期的な視点にたった人づくりによる地域創生を目的として、学校や地域における子どもから大人までを対象とした多様な教育と学びによって、持続可能な地域づくりの担い手を育てる研究を行っています。これは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（平成 27～31 年度 研究代表者・阿部治）であり、一方、長崎県対馬市では「域学連携」（地域と大学との連携）や「地域おこし協力隊制度」等の外部人財を活用しながら、人づくりを地域創生の根本に据えた取り組みを展開しています。

立教大学と対馬市は、これまでも様々な取り組みを通して交流を重ねてまいりましたが、2016 年 6 月、同市と当研究所の間で、ESD 研究連携に関わる覚書を締結し、ESD を通じた地域創生の可能性について実証研究を行うことになりました。ESD による地域創生を目的とした大学と自治体の覚書締結は、今回が全国で初めての試みです。

覚書締結後の最初の活動として、立教大学の学部生と大学院生による対馬市でのアクション・リサーチを実施しました。初めて対馬を訪れる学生の目に、対馬はどのように映ったのか。とくに小学校の統廃合による変化や学校教育の状況等について、対馬市の様々な関係者の方々にご協力をいただいて調査を行いました。

また 12 月には、2015 年からはじまった「対馬学フォーラム」に参加し、立教大学の大学院生が発表する機会を得ました。自分たちが発表するだけでなく、島内外から、子どもから大人まで実に多くの人たちによる多様なテーマの発表を目の当たりにして、学生は非常に刺激を受けていました。

本報告書は、対馬市と立教大学 ESD 研究所の連携の第一歩をまとめたものです。今後私どもの活動は様々な形で展開していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。末筆ながら、覚書締結のために対馬市から立教大学までお運びいただきました、比田勝尚喜市長をはじめ、ご尽力いただいた市役所の一宮努氏、前田剛氏に感謝申し上げますとともに、夏のアクション・リサーチで学生たちに対馬の魅力を語ってくださり、ひとかたならぬご厚情を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。

2017 年 3 月
研究代表者 阿部 治